

シリーズ第4弾 基本画像18枚前後 差分合計241枚

せらちゃんとゆーなちゃんも加わった

とってもへぶんなCG集♡

3ーるぷれいD2へぶん

とろん「ほう、例のラスボスの子が来たわよ。  
ほんとあんたを宇宙から連れて帰るの大変だったんだから。  
感謝しなさいよね。」

ろーる「せうさんとゆーなさんは  
混沌の世を楽しむために  
もっと「でこい」の事を  
調べたいんだよね？  
どんな事が知りたい  
のかな？」

せう「うむ、感謝するぞ  
デコイ人よ。俗な事を聞くが  
私達はお主達のまぐわいを  
知りたいぞ。これは私がかく乱心して  
不埒な行為がしたい訳ではないぞ。  
お主等の生態系のデータを  
知る事によって人類が…」

ゆーな「要するに  
せうは君とまぐわいたい  
わけなのよ、とりがー君。そりゃそうよね。  
転生して二回もドッキドキの死闘を演じたんだから  
いつの間にか殺意が愛にクラスチェンジするのも仕方ないわよね。」



とろん「へ、へえ。でもまだあなた達にはまだ早いんじゃないかな？  
見学してみるだけならいいんじゃない？」

(や、やったー久しぶりにぶっくを……！)

ろーる「ぶっくをえっちしたいの？」

せらさんとゆーなさんも

やってみる？

私も久しぶりだから

やってみようかな。」



ろっく「だ、だめだよーろっくさん  
この方達にそんな失礼な事したろっく……」

くあああああ……？

射程ガクント／ビオルワッ！

我／前世ノ記憶ガ

蘇リソウダ……」

せら「いや……前世のおまは

知ってるが……おまは

そんな不埒でアホな事は

言わぬぞ……」

その大業物……早くしまわぬか……」

ゆーな「あはは！前世のどりが一番を知ってる

せらちゃんだからろっくさんミミルさんだろっく……」

ろっく「じゃあ一つ条件があります。  
あの時のせうさんの笑顔を見せてくれたら  
いいですよ。」

ろーる「笑顔？」

ゆーな「私もせうの笑顔  
好きだな。私でさえあまり  
見た事ないけどね。」

せう「私もこのオテコ人…  
いや、テコイ人の言つとおり  
見学でいいのだから…  
仕方ない…笑えはいい  
のだから…笑う…  
たしか…表情筋の設定を  
こっだったな…」



せう「ずわっ!この笑顔が所望か?」

とろん「怖い!」

ろーる「唾まれる!」

こぶん「とろんしゃま〜

食べられたら

たびらりる〜!

うわ〜ん!びえ〜ん!

ろっく「こぶん君まで  
び〜び〜泣いてる!  
こんなちっちゃい子  
泣かしたったら  
あかんやん!」

ゆーな「な、なんか…人類を根絶やしに  
しぞつな笑顔ね、せうちゃん…。」





うーる(で、結局みんな  
きもちがしたいんだよね……)

とろん(ああ……  
ひさしぶり……♡)

せう「舌を使っ……えんえん……うっか……」  
とろん「うっか……」

……んん

ゆーな  
「じゃあ私は君のお口  
食べちゃおうかな。」

ちや





「せら  
んぐぶろおおおあうっ!!?」

ろっく「ゲットセツト!!!」  
トリック「ガイキマース!!!」

いびき

ちゅぽんぽん

ふんふん



フー...  
フー...  
フー...  
フー...

せう(んのおお)っ...深い...ぞとて硬い...  
んぐぶっ、これがぞつこの  
味の情報か...  
ううんぐ...  
私の口の中いっぱい  
広がる...濃い...♡

ゆいな  
(あ、いいな、私さぞうっか一番のをほっくんとぐっして  
へちまへちまキムウ回してひめまたいな)♡

ハハハ  
ハハハ  
ハハハ





せう

「んほっ!ぶちちっ!」

「ぐちっ!んんんっ!」

「そんな...乱暴に扱っな...♡」

ゆーな

「まのそれでもこの子に舐められたら堪らないわよね。私に

おちんちんがあつたら舐めてもらいたい♡♡♡

ぶちちっ

んほっ

ちっ  
びっ





ゆーな

「あはっ、君の結構大きいね。」

「はりのお口元持ちりよかったな？」

「うーる、今度は君がサボークン」

「あけるな、さっくん♡」

おっ、おっ、おっ、

せう「全く何て物を飲ませおるのだ。」

「まだ喉の奥で引っかかる感じだぞ。」

とろん

「ふー、びんびんくちやうて」

「そんなによかったんだ♡」



ゆーな

「とりっか君の舐めちゃうの。」

えろえろえろっ♡

おちんちん舐めるの

だーのしー」

うーる(ゆーなさんさ、えろえろな子かも)

あつううーるちゃんみたい。」

ひゅっ

ぴちゅっ  
ぴちゅっ

ひゅっ  
ひゅっ

ぬん  
ぬん

せう

「ゆーな、お前はほんとに

緊張感の無い奴だな。」

どうん

「何なのよ、前のぼにどうーる

といひ何でどうんを慣れたるのよ。」





はっ、はっ

あ、ん

「あーな「ぽっくん♡  
んもっ、おいひ♡」

「あーっ!!!」

ふんふん「ほいおっ... ゆーなちゃんのおまめだったからですよー！」  
ふんふん「おっ...」

ゆーな「んねるっ、口内の温度の自動調節  
しておいたからホカホカしてきもちいいぞっ  
んふふっ、オッケーっ♡」







ろっく「ふおおおっマブレイエグリー!!!  
もうだめですゆーなさん、離れてっ!!」

ゆーな(もう少し楽しみたかったけど  
おちんちん汁まで占有しちゃ悪いから  
皆にもおそろ分けしてあげよっか♡)

おっ  
おっ  
おっ

おっ  
おっ  
おっ





せう「熱っ！」

とろん「あーん、私も食へたかったのじい！」

とろん「おっけー？」

とろん

とろん

とろん

とろん

ゆるな「ふふっ、君のおちんぽ  
とっても美味しかったよ♡」

ゴロオ

ぺんぺん...

せう

「よく詰め込んであるな  
お主の玉袋は。」

うう

「ハァハァ...無理やり...  
絞りだされた...」

絞りだされた...







あーん！じゅあめスしはらにっ！うーるぢまなまか(り)！  
挨拶してあげようかなかな？！マジジョンスター！

あーん！

びん！

ぢゅあめ

うーる「あああんっ！」  
地球帰還ちゃんぽああっ！

「あんなに可愛いわね、おっぱいも胸も尻も全部可愛いわね、おっぱいも胸も尻も全部可愛いわね」

仕方がなかったよ。せうさんとゆーなさんとゆー

まだそんな雰囲気じゃなかったからさ。

やっぱりろーるちゃんまんこが

帰って来たって感じがあるわ」



ろーる

「んんんああっ!!!」

そっなんだ...!じゃあ我慢した分だけ...

あっアッあっ...私のおまんこを使っ

「はいはいおまんこをくっつけてほしいわね!」





「はあ〜ん♡」  
「はあ〜ん♡」  
「はあ〜ん♡」

あ〜ん♡

お尻

お尻

「はあ〜ん♡」  
「はあ〜ん♡」  
「はあ〜ん♡」





あん

ひん

く...あ

ひん

「あん♡ いいおいしいよ  
とっぴがー君。さすが  
現役ディクアウターね。  
宝箱の開錠はお手の物  
ね♡」

「あんあ♡ 乳首を  
こりこりするぞない  
この不埒者めが！」  
「うちのダイヤルは  
大きいな...」  
「アリス・ヴェル...」  
「つつかな〜」

「ちっと失礼します  
せうさん。えっぞこの  
金庫のダイヤルの  
開け方は「りこり...」  
...」



ろーろ「んひゃあんっ!!」

ん

んひゃあんっ!!

「ぶいぶい」  
間にライフゲージが  
自動回復したよ。  
ターゲットロックオン!



うっく「合体！合体！」

うーる「うさちゃんとは口距離密着

ほ「ほっくくくくうーる！」

おっほいおっほい！」

あッ♡

うん...

んやあ♡

ろーる「きゅうん！」

もっとおっほい触って！」

もっと乳首をくっくくくっく！」

どん、どん、  
ぱんぱん、  
ぱんぱん

ドッ  
ドッ  
ドッ  
ドッ



「お尻の洗い方、どうですか？」  
「お尻の洗い方、どうですか？」  
「お尻の洗い方、どうですか？」

あああ

「お尻の洗い方、どうですか？」  
「お尻の洗い方、どうですか？」  
「お尻の洗い方、どうですか？」

お尻  
お尻  
お尻

お尻  
お尻  
お尻



ろーる  
「んふああああっ♡♡♡  
ろっくの熱いミルク  
中にびんびん  
注がれちゃってるよおおあっ♡♡♡

しび

びんびん

びんびん



さっちゃん「んおおおおっ!!!!」

さっちゃん

スリッパ

さっちゃん

さっちゃん

さっちゃん「さっちゃんちゃん痛かった?」





とろん  
「あぁあはっ♡んんっやっ♡  
んんっ♡きもちいいよっ  
ろっくちんほひさしぶりいっ  
もっと腰振ってえええっ♡」

スッ  
スッ  
スッ

めッ♡  
めッ♡

グッ  
グッ  
グッ



あッ♡

ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ  
ゴッゴッ

あッ♡

ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ  
ゴッゴッ

ゴッゴッ

とろん「うんっ!  
おっぱい揉んで!  
ろくにおっぱい  
むにゅむにゅ  
されるの好きい!」

うんっ  
「とろんちゃんの  
おっぱい  
もちもちだね」



ろくろく「とろんちゃんの  
かわいいおっぱいと  
顔においしいミルク  
かけてあげるよ！」

とろん  
「とろん  
はああんっ！  
はああんっ！  
はああんっ！」

とろん「あっ……んっ……はぁ……きもちひ……♡」

せう「泣いて見ると凄く迫力だな。

見るからに痛そうだがごやつ顔の

見ているとやはりまぐわいとほ

気持ちいいものなのかな……」





ぬいぶいぶ  
いぶいぶ

く...あ

ひびひび

んっへ「まだまだー」  
とっんちん「もっせ」  
種付けプレスするよー!

「...へっ...さびへはさ  
とっん「ひんっ」  
をわっへっ...」





あッ♡

ズンズンズンズン

あッ♡  
あッ♡  
あッ♡

うっく  
「目がやぶやぶちゃん!  
かい!？」

とろん  
うんっ!  
ろっくに残虐  
ファイトで  
叩きつけられて  
もうやみつきよ♡







せら「お主も大概緊張感のない奴だなとっiggがーよ  
どさくさに紛れてこの私の本体に侵入してきあって……」

「まあよい、  
せら  
存分にかかってっつらねよ」



せら  
（システムから離れた事をしてみるのも  
いいものだな…♡）

せら  
（お前たちがうらやましい…こんないきいきのなつ…  
私はこの混沌の世を楽しんでみたい…♡）



ろっく「僕が貴方のチンポマスターになってあげますよ、お、せうせん。」

＃ぱにゅ〜♡

ぱにゅ♡

ぱにゅ♡

ろーる

「この子本当にラスボスかな？」

せう「はっつんっ  
耳元でなまめかしく  
ささやくな!!!  
瞳がキュンキュンするどほ  
ないか!!!」





「せう「とりのがーよーへぶんだ！  
へぶんげーとにたせりつけそつだ！  
んあっ♡あんああっ♡♡やっ♡んんんっ♡あっあっあっ♡」

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー



ゆーな

「じゃあ今度は私の番ね♡  
君はこの体とろーるままの  
体とどっちが好きなのかな？」



「ろーるちゃんとの親子丼ぶれいも捨てがたいなあ……」

ろーる「ちゅも好きですが」

ちゅ♡  
ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡  
ちゅ♡





ゆーな「んっんっんっんっ♡♡♡  
いいのいいの！私が動かして  
あげるから♡♡♡」

んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

ゆーな「あっんっ♡やあっほっ♡いいよっ♡  
君のちんぽすっくいいー！！岩男っで感じー！」





ぬぬぬ..  
にゅん,

ゆーな  
「はぁ、あぁ、あん♡♡♡♡  
…んはっ、はっ、ああん…♡  
ははは…♡」

あ  
♡  
あ

ゆーな

「ふうー！んっ！んっ！んっ！」

あっ、ああんっ、ああんっ、

あんっ♡♡♡

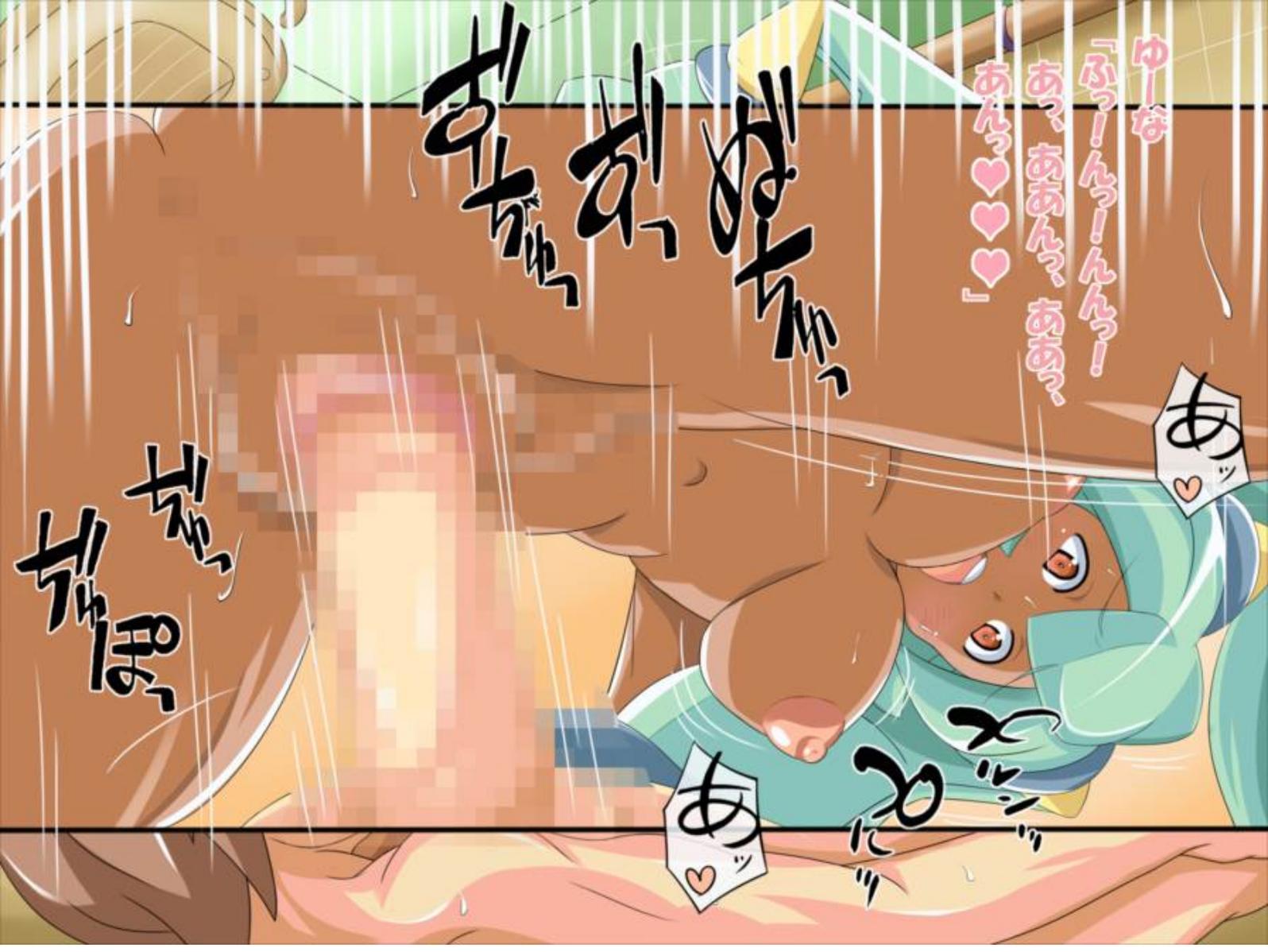
おんっ、おんっ、おんっ、

あ

あ

あ

あ

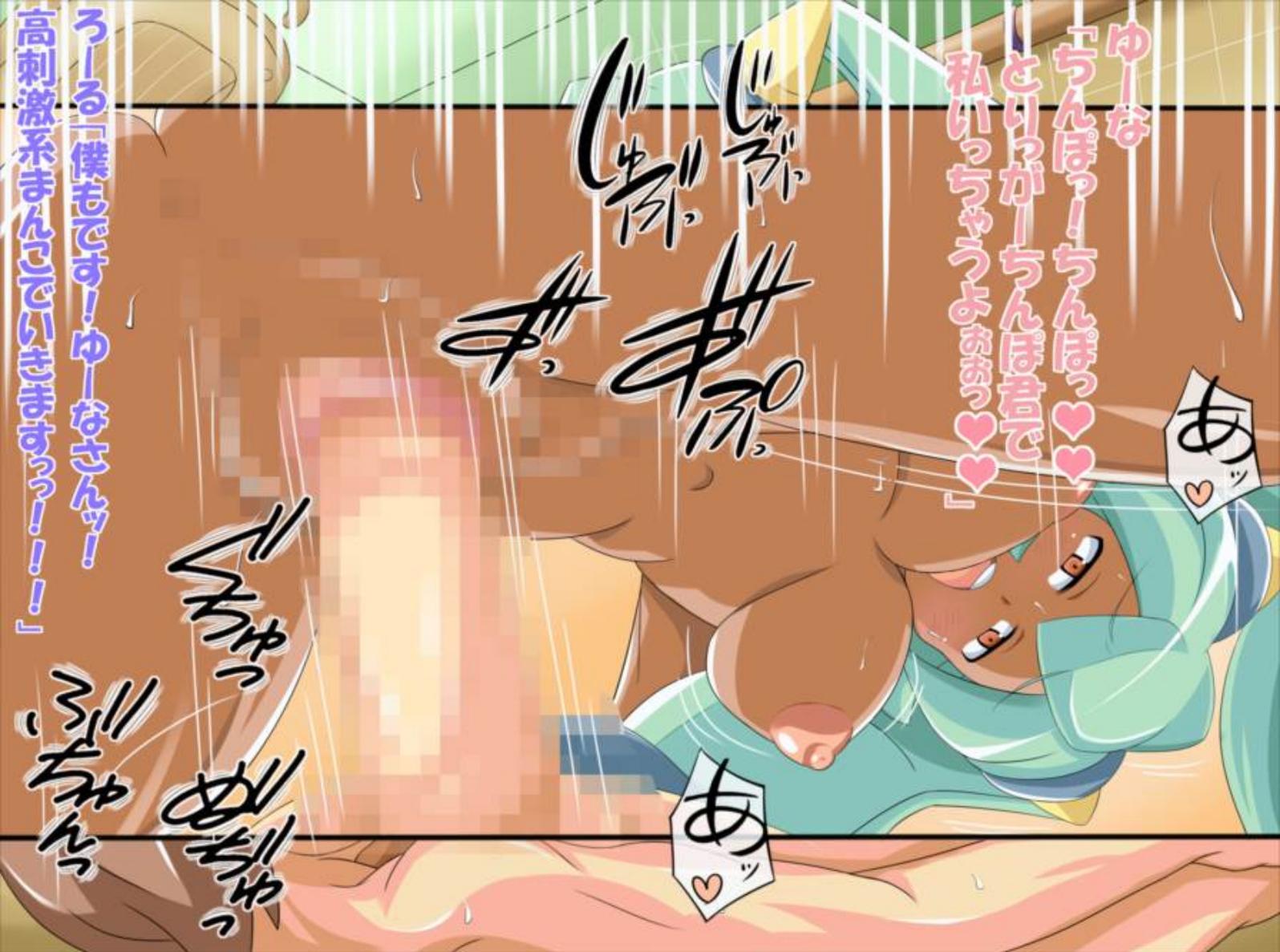


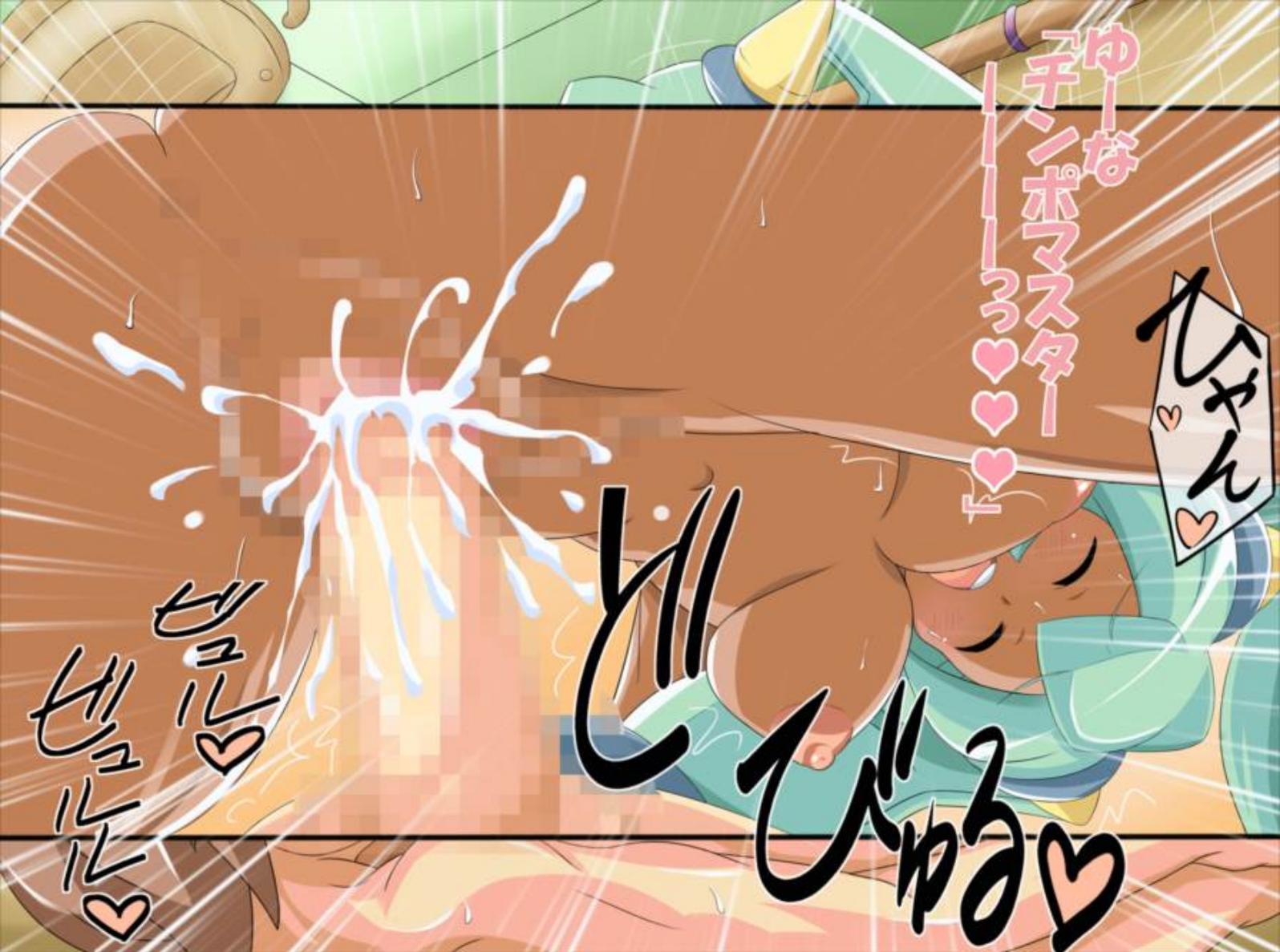
ゆーな  
「ちんぽっ！ちんぽっ♡♡  
とっぴがーちんぽっで  
私いっちやうよめたい♡♡」

じゅん  
じゅん  
じゅん  
じゅん

ろーる「僕もですーゆーなさんッ！  
高刺激系まんこでいませませっ！ー！ー！」

ちゅん  
ちゅん  
ちゅん  
ちゅん





ゆーな  
チンポマスター  
♡♡♡

せん  
♡♡♡

ひびく♡

ひびく♡  
ひびく♡

ろーる「んしゅと、あっぱいせつとあぶらだー♡  
最後は私のおっぱいとま口で綺麗にしてあげるな♡」



「あ、んしゅと♡あっぱいせつ♡」

みんなの体がホロホロあつたまじりけいけい〜……  
パイプライン……あつたまじりけいのあつたまじりけい……  
あつたまじりけいのあつたまじりけい……







あは

「うーる「ははは...」おもしろかったわー...  
次はもっと気持ちいいお風呂にしようねー♡」

あは

あは

「クダモノローレキョウニクダモノラツネー」

んん

ろーる「んもっ♡ろっくのたくましいおちんぽ  
お口にいっぱいほお張っちゃうよ♡はもはも♡」

んんんん...

おっ

もっ

んんんん  
「ずるおおおおっ...!!」  
ろーるちゃんの  
柔らかパイフェラホールド!  
気持ちよさほ  
シャインレーザー級!!」

びん





うーる

「うーるがまっ♡♡♡  
「うーるがまっ♡♡♡」

うーる♡

うーる♡

うーる♡

うーる

「うーるがまっ♡♡♡  
「うーるがまっ♡♡♡」  
大丈夫？」

うーる

うーる♡

うーる♡





せう

「しかしろーるの他に  
ろーるがいるのか  
それは神妙不可思議で  
奇怪な話だな。」

ろっく

「ええ、僕も偶然だと  
思ったんですが  
そのろーるちゃんは  
他のろーるちゃんを  
連れて来ると  
言っていました。」

ゆーな

「まるでろーるちゃんの  
バーゲンセールね。Y  
とこのかのデパートで  
売ってるのかしら。」



Y P P

AP P P E

Y T O R E

風林

火

いが

たこ

えび

せう「衰退する前の古代人が

やってきたのかそれとも

ロボットとほまた違う技術が

発達した次元から

やってきたのかも

しれんな。」

ゆーな

「なんかどっかがー君

色んな女の子とええちでまで

モテモテムーしんだね。

モテ期かな？正回期？

どっかがー君の救出に

関わった例のあの子とも

えっちできるんじゃない？」

ろっく

「それはおかしい

駄目ですよ。

ぼれっと兄貴に

歯を食いしぼれ

パンチされます。」



い た え

せう「かっかか。はれっとか、

あやつもあやつでやり手だのう

例のえあろという娘、

別プロジェクト名

「りりい」といってな、

はれっとは他に

8人ものりりいを

従えておるのだ、

とりの字に勝るとも分らない

剛毅な奴よ。」

ゆーな

「りりいぶれいかあ、

はれっど吾もやるわね♡

あ、せうちゃんが楽しそうに笑った！

私せうちゃんの笑顔見るの大好き！

その笑顔一万フレーム

ぐらいいきでしてね♡



えび

たこ

いか



APPRE

STORE

火

風

